

街へ、暮らしへ、広がる近鉄ネットワーク

証券コード9041



www.kintetsu.jp

2015年3月期 第2四半期決算説明会

2014年11月19日

- I. 2015/3月期 第2四半期決算の概要
- II. 2015/3月期 通期業績予想
- III. 近鉄グループ経営計画 進捗状況



I. 2015/3月期 第2四半期決算の概要



最近のトピックス

- ◆ 14年 3月 : あべのハルカス全館グランドオープン
- ◆ 14年 3月 : 近鉄特急車両による阪神・近鉄直通の団体臨時列車
運行開始
- ◆ 14年 3月 : 大分高江ソーラー発電所 発電開始
花吉野ソーラー発電所 発電開始
- ◆ 14年 4月 : 鉄軌道運賃・料金改定（平均2.855%）
- ◆ 14年 9月 : 奈良線八戸ノ里～瓢箪山間大阪難波方面（上り線）
高架運行開始
- ◆ 14年10月 : 伊賀ゆめが丘ソーラー発電所 発電開始
- ◆ 14年10月 : しまかぜ 京都発着定期運行開始（1編成増備）
- ◆ 15年 4月 : 会社分割による純粋持株会社制への移行（予定）
（近鉄グループホールディングス(株)へ商号変更（予定））

2015/3期 第2四半期 業績の概要

(億円、%)	2014/3期 第2Q		2015/3期 第2Q		前年同期比増減		増減要因	2014/5 時点見通
		構成比		構成比	金額	率		
売上高	5,970	100.0	5,943	100.0	▲ 26	▲ 0.4	不動産▲111、運輸▲32、 流通+110	6,180
営業利益	249	4.2	239	4.0	▲ 9	▲ 3.8	運輸▲25、不動産▲18、 レジャー+19、流通+11	240
経常利益	218	3.7	224	3.8	6	2.8	持分法投資利益+5、 支払利息減+9	185
特別利益	82		42		▲ 39	▲48.2	工事負担金等受入額▲30	
特別損失	99		51		▲ 47	▲47.8	工事負担金等圧縮額▲30	
四半期純利益	129	2.2	143	2.4	13	10.6		100
持分法投資利益	40		46		5	14.6		
借入金・社債	12,390		11,928		▲461			

(注)連結子会社数 59社(前期末比1社増加) 持分法適用会社数 6社(前期末比増減なし)

2015/3期 第2四半期 貸借対照表の主な増減

(億円、%)	2014/3期		2015/3期 第2Q		比較 増減額
		構成比		構成比	
流動資産	3,571	18.2	3,439	17.7	▲ 131
固定資産	16,000	81.7	16,008	82.2	8
うち事業用資産	14,279		14,210		▲ 68
資産合計	19,591	100.0	19,472	100.0	▲ 118
流動負債	6,983	35.6	6,539	33.6	▲ 444
固定負債	9,561	48.8	9,867	50.7	305
負債合計	16,545	84.4	16,406	84.3	▲ 138
うち借入金・社債	11,871		11,928		56
純資産合計	3,045	15.6	3,066	15.7	20
うち利益剰余金	65		105		39
負債、純資産合計	19,591	100.0	19,472	100.0	▲ 118

《主な増減要因》

資産

- ・現金及び預金 ▲129
- ・事業用固定資産 ▲68
(うち、設備投資 +159、減価償却▲262)
- ・受取手形及び売掛金 +57
- ・投資有価証券 +39

負債

- ・借入金・社債 +56
- ・その他の流動負債 ▲245

純資産

- ・利益剰余金 +39
- ・少数株主持分 ▲13

2015/3期 第2四半期 キャッシュフローの状況

(億円)	2014/3期 第2Q	2015/3期 第2Q	比較増減額
営業活動によるキャッシュフロー	554	342	▲ 212
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 289	▲ 387	▲ 97
財務活動によるキャッシュフロー	163	▲ 80	▲ 243
現金及び現金同等物の期末残高	898	473	▲ 425
フリーキャッシュフロー(営業CF+投資CF)	264	▲ 45	▲ 309
財務活動のうち借入金・社債フロー計	▲ 402	39	441

《キャッシュフローの当第2四半期の状況と対前年同期比増減》

営業活動

- ◆ 主としてたな卸資産の増減額が増加に転じたため、前年同期比212億円収入減の342億円の収入

投資活動

- ◆ 主として固定資産の取得による支出が増加したため、前年同期比97億円支出増の387億円の支出

財務活動

- ◆ 借入金・社債は増加に転じたが、前年は株式の発行による収入があったため、前年同期比243億円支出増の80億円の支出

現金及び現金同等物の期末残高

- ◆ 前年は株式発行による収入があったため、前年同期比425億円減の473億円

2015/3期 第2四半期 セグメント別実績

(億円、%)	2014/3期 第2Q	2015/3期 第2Q	前年同期比増減	
	売上高	売上高		
	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額	率
運 輸	1,094	1,062	▲ 32	▲ 3.0
	149 (13.7)	123 (11.7)	▲ 25	▲ 17.4
不 動 産	743	632	▲ 111	▲ 15.0
	79 (10.7)	61 (9.7)	▲ 18	▲ 22.9
流 通	1,850	1,960	110	6.0
	11 (0.6)	22 (1.1)	11	104.1
ホ テ ル ・ レ ジ ャ ー	2,352	2,390	37	1.6
	2 (0.1)	22 (0.9)	19	711.0
そ の 他	68	70	2	3.4
	4 (6.8)	6 (9.4)	2	44.3
合 計	5,970	5,943	▲ 26	▲ 0.4
	249 (4.2)	239 (4.0)	▲ 9	▲ 3.8

2015/3期 第2四半期 運輸セグメント実績

(億円)		2014/3期 第2Q	2015/3期 第2Q	前年同期比増減	率(%)
売	上 高	1,094	1,062	▲ 32	▲ 3.0
	鉄 軌 道 事 業	785	767	▲ 18	▲ 2.3
	バ ス 事 業	168	171	3	1.9
	タ ク シ ー 業	56	57	1	3.3
	交 通 広 告 業	41	38	▲ 3	▲ 7.8
	鉄道施設整備業	114	75	▲ 38	▲ 33.9
	海 運 業	9	9	0	0.9
	レ ン タ カ ー 業	15	15	▲ 0	▲ 0.9
	消 去	▲ 96	▲ 73	22	
営 業 利 益		149	123	▲ 25	▲ 17.4

■ 主な増減要因

- ◆ 鉄軌道部門において、4月の定期券の駆け込み購入の反動減や前年の伊勢志摩地域への利用客増加の反動により減収となり、退職給付費用の増も加わり減益

2015/3期 第2四半期 不動産セグメント実績

(億円)		2014/3期 第2Q	2015/3期 第2Q	前年同期比増減	率(%)
売 上 高		743	632	▲ 111	▲ 15.0
	不 動 産 販 売 業	465	292	▲ 173	▲ 37.2
	不 動 産 賃 貸 業	103	159	55	53.7
	不 動 産 管 理 業	204	214	10	5.1
	消 去	▲ 30	▲ 34	▲ 4	
営 業 利 益		79	61	▲ 18	▲ 22.9

主な増減要因

- ◆ 不動産販売部門において、マンション販売戸数が減少したため、減収減益

2015/3期 第2四半期 流通セグメント実績

(億円)		2014/3期 第2Q	2015/3期 第2Q	前年同期比増減	率(%)
売	上 高	1,850	1,960	110	6.0
	百貨店業	1,325	1,405	80	6.1
	ストア・飲食業	532	565	32	6.1
	消 去	▲ 7	▲ 10	▲ 2	
営業利益		11	22	11	104.1

主な増減要因

- ◆ 百貨店部門において、あべのハルカス近鉄本店の全館開業により増収増益

2015/3期 第2四半期 ホテル・レジャーセグメント実績

(億円)		2014/3期第2Q	2015/3期第2Q	前年同期比増減	率(%)
売	上 高	2,352	2,390	37	1.6
	ホ テ ル 業	233	257	23	10.0
	旅 行 業	2,053	2,056	3	0.2
	映 画 業	15	16	0	6.1
	旅館・レジャー施設業	50	59	9	17.8
	消 去	▲ 0	0	0	
営 業 利 益		2	22	19	711.0

■ 主な増減要因

- ◆ ホテル部門で、あべのハルカス内の大阪マリオット都ホテル開業により増収となり、一部子会社の決算期変更による増益も加わり増益

2015/3期 第2四半期 設備投資・減価償却費

(億円)		2014/3期 第2Q	2015/3期 第2Q	前年同期比増減
設 備 投 資	資	291	159	▲ 132
	運 輸	75	87	11
	不 動 産	37	16	▲ 21
	流 通	152	30	▲ 122
	ホ テ ル ・ レ ジ ャ ー	15	14	▲ 1
減 価 償 却 費		250	262	12
E B I T D A		499	502	2

設備投資の主な増減要因

- ◆ 不動産 : あべのハルカス設備投資額減
- ◆ 流通 : あべのハルカス近鉄本店タワー館 設備投資額減

Ⅱ. 2015/3月期 通期業績予想



2015/3期 通期業績予想

(億円、%)	2014/3期 実績		2015/3期 予想		前期比増減		2015/3期 当初計画 (5/13発表)	当初計画比 増減額
		構成比		構成比	金額	率		
売上高	12,463	100.0	12,650	100.0	186	1.5	12,900	▲ 250
営業利益	546	4.4	550	4.3	3	0.7	600	▲ 50
経常利益	468	3.8	480	3.8	11	2.5	480	0
当期純利益	245	2.0	240	1.9	▲ 5	▲ 2.4	230	10

前期比の主な増減要因

- ◆ 経常利益は、金利の低下による支払利息の減少により、増益の見込み

当初計画比の主な増減要因

- ◆ 経常利益は、営業利益の引き下げはあるものの、第2四半期に計上した近鉄エクスプレスの持分率上昇に伴う持分法投資利益の計上や支払利息の減少を見込み据え置き
- ◆ 当期純利益は、少数株主利益の減少を見込み、引き上げ

2015/3期 通期 セグメント別予想(前期比)

(億円、%)	2014/3期 実績	2015/3期 予想	前期比増減	
	売上高	売上高		
	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額	率
運 輸	2,225	2,170	▲ 55	▲ 2.5
	303 (13.6)	251 (11.6)	▲ 52	▲ 17.4
不 動 産	1,593	1,610	16	1.1
	122 (7.7)	143 (8.9)	20	17.2
流 通	3,820	4,020	199	5.2
	48 (1.3)	59 (1.5)	10	22.2
ホテル・レジャー	5,004	5,140	135	2.7
	57 (1.2)	79 (1.5)	21	36.2
そ の 他	143	140	▲ 3	▲ 2.6
	10 (7.4)	13 (9.3)	2	22.8
合 計	12,463	12,650	186	1.5
	546 (4.4)	550 (4.3)	3	0.7

■ 主な増減要因

- ◆ 運輸 : 前期末の定期券等の駆け込み購入や前年の伊勢志摩地域への利用客増加の反動により減収減益
- ◆ 不動産、流通 : あべのハルカス全館開業により増収増益
- ◆ ホテル・レジャー : 旅行部門の増収や大阪マリオット都ホテル開業により増収増益

2015/3期 通期 セグメント別予想(当初計画比)

(億円、%)	2015/3期 当初計画 (5/13発表)	2015/3期 予想	当初計画比増減	
	売上高	売上高		
	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額	率
運 輸	2,170	2,170	0	—
	251 (11.6)	251 (11.6)	0	—
不 動 産	1,620	1,610	▲ 10	▲ 0.6
	150 (9.3)	143 (8.9)	▲ 7	▲ 4.7
流 通	4,220	4,020	▲ 200	▲ 4.7
	97 (2.3)	59 (1.5)	▲ 38	▲ 39.2
ホテル・レジャー	5,140	5,140	0	—
	82 (1.6)	79 (1.5)	▲ 3	▲ 3.7
そ の 他	140	140	0	—
	13 (9.3)	13 (9.3)	0	—
合 計	12,900	12,650	▲ 250	▲ 1.9
	600 (4.7)	550 (4.3)	▲ 50	▲ 8.3

■ 主な増減要因

- ◆ 流通： あべのハルカス近鉄本店の予想売上高を引き下げたほか、沿線外へのファミリーマート店舗展開が当初想定より遅れていることにより、引き下げ

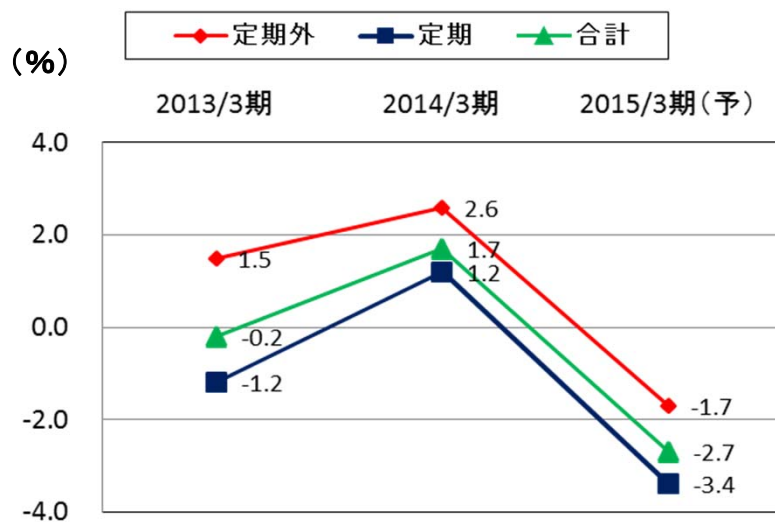
2015/3期 通期 設備投資・減価償却費・借入金社債残高 予想

(億円)		2014/3期 実績	2015/3期 予想	比較増減額	2015/3期 当初計画 (5/13発表)
設 備 投 資		767	460	▲307	480
	運 輸	214	260	45	280
	不 動 産	165	40	▲125	40
	流 通	248	60	▲188	60
	ホ テ ル ・ レ ジ ャ ー	118	80	▲ 38	80
減 価 償 却 費		510	540	29	540
E B I T D A		1,056	1,090	33	1,140
借 入 金 ・ 社 債 残 高		11,871	11,700	▲171	11,700
E B I T D A 倍 率		11.2倍	10.7倍		10.3倍

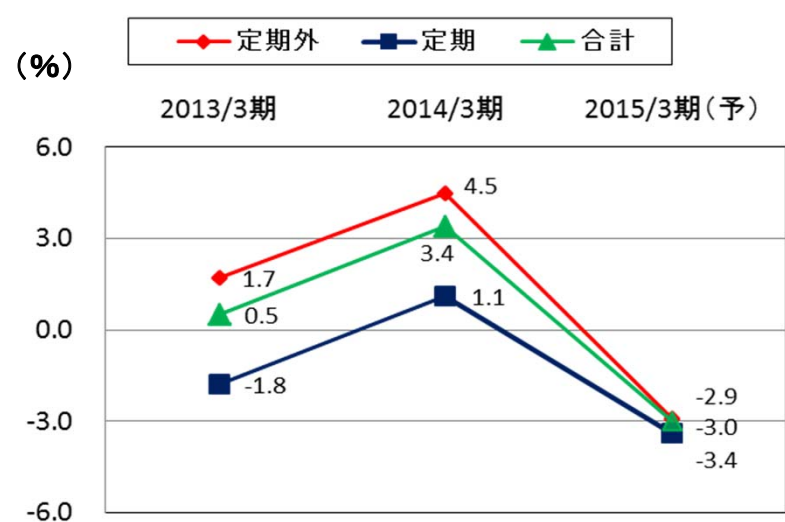
【ご参考】鉄道運輸成績の実績および予想

(近畿日本鉄道単体)		2013/3期		2014/3期		2015/3期			
		実績	前期比	実績	前期比	2Q実績	前年比	通期予想	前期比
旅客人員 (百万人:%)	定期外	226	1.5	232	2.6	113	▲ 1.5	228	▲ 1.7
	定期	338	▲ 1.2	342	1.2	171	▲ 1.8	330	▲ 3.4
	計	565	▲ 0.2	574	1.7	284	▲ 1.7	559	▲ 2.7
旅客収入 (億円:%)	定期外	974	1.7	1,018	4.5	488	▲ 2.7	989	▲ 2.9
	定期	475	▲ 1.8	480	1.1	237	▲ 1.8	464	▲ 3.4
	計	1,449	0.5	1,498	3.4	725	▲ 2.4	1,453	▲ 3.0

＜旅客人員 前年比の推移＞



＜旅客収入 前年比の推移＞





Ⅲ. 近鉄グループ経営計画 (2010年度～2014年度) の進捗状況

経営計画の概要① 期間と位置付け

阿部野橋ターミナルビル(あべのハルカス)が完成する2014年までを「基盤強化期」と位置付け、その間に各種プロジェクトを着実に実現すると共に、構造改革を進め、新たな収益基盤の確立に向けた事業創出を図る。



経営計画の概要② 経営数値目標

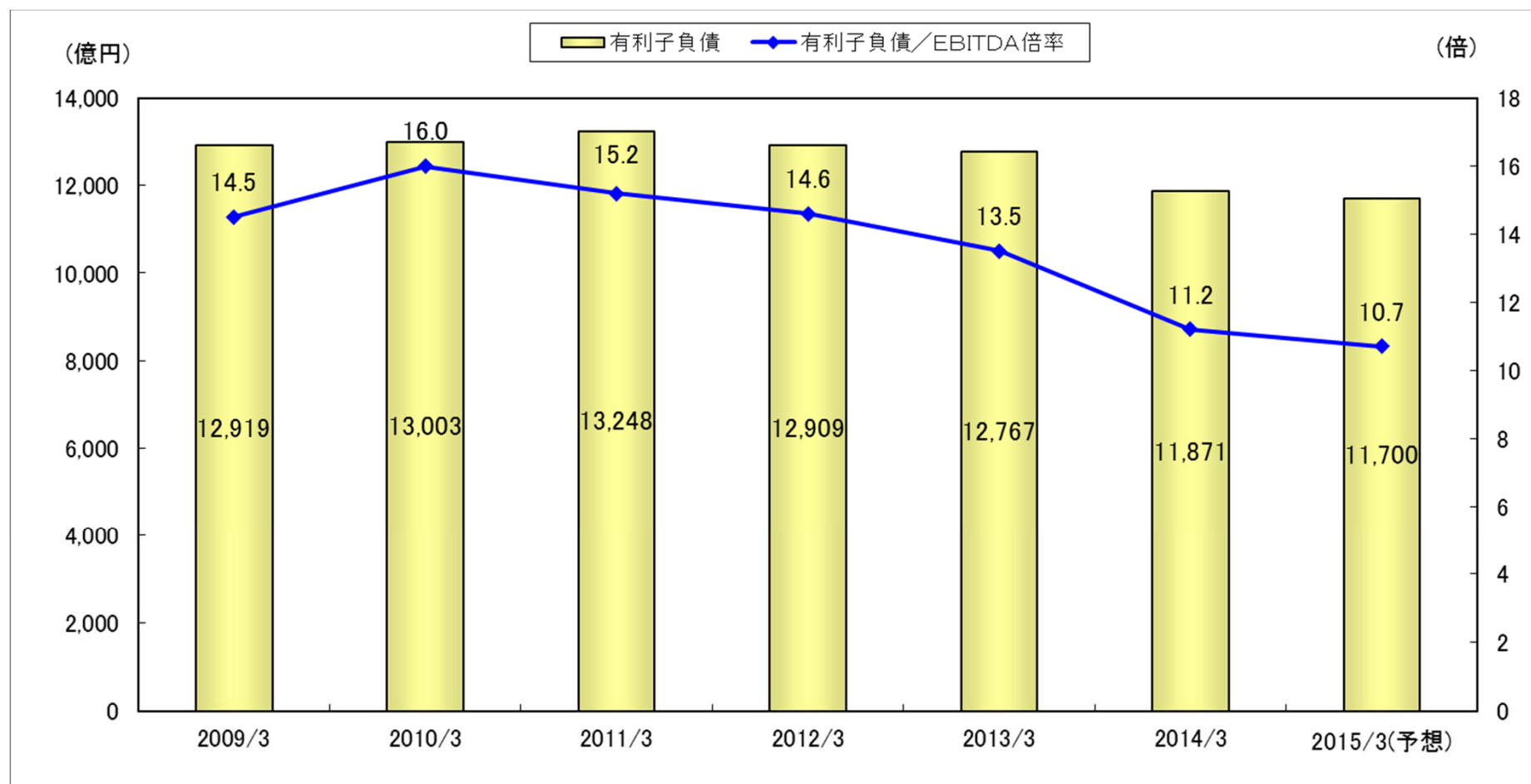
あべのハルカスが完成し、経営計画最終年度である2015／3期は、経営目標数値のうち営業利益を除き達成の見通し。

	2011/3 実績	2012/3 実績	2013/3 実績	2014/3 実績	2015/3 予想	2015/3 経営計画目標
連結 営業収益	9,600億円	9,427億円	9,321億円	1兆2,463億円	1兆2,650億円	1兆1,000億円
連結 営業利益	399億円	402億円	474億円	546億円	550億円	600億円
連結 当期純利益	143億円	86億円	200億円	245億円	240億円	200億円
連結 有利子負債	1兆3,248億円	1兆2,909億円	1兆2,767億円	1兆1,871億円	1兆1,700億円	1兆2,800億円
EBITDA倍率	15.2倍	14.6倍	13.5倍	11.2倍	10.7倍	11.0倍

(EBITDA = 営業利益 + 減価償却費)

経営計画の概要③ 有利子負債の削減

キャッシュフローによる有利子負債削減を進めており、経営計画最終年度の2015／3期には、目標の有利子負債残高1兆2,800億円に対して1兆1,700億円、有利子負債／EBITDA倍率11倍に対して10.7倍を見込んでいる。



経営計画の概要④ セグメント別営業利益の推移

あべのハルカスの開業や利益創出力の強化により、不動産、流通、ホテル・レジャーセグメントは、営業利益増加を見込み、営業利益に占める運輸業以外の割合が増加。

運 輸

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3 (予想)
営業利益	288	273	296	303	251
売上高 営業利益率	13.2%	12.9%	13.9%	13.6%	11.6%

鉄道収益は減少するものの、事業構造改革等の実施により、消費税や電気料金の影響を除いた所期の営業利益は確保

不 動 産

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3 (予想)
営業利益	68	81	81	122	143
売上高 営業利益率	4.9%	5.9%	6.0%	7.7%	8.9%

あべのハルカス効果のほか、マンション販売において高利益率物件へのシフトが進むことにより、セグメント全体の利益率向上

流 通

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3 (予想)
営業利益	36	37	45	48	59
売上高 営業利益率	0.9%	0.9%	1.2%	1.3%	1.5%

あべのハルカス効果を中心に、営業利益、営業利益率ともに向上

ホテル・レジャー

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3 (予想)
営業利益	△ 2	△ 1	39	57	79
売上高 営業利益率	△ 0.1%	△ 0.1%	1.9%	1.2%	1.5%

ホテル収益の震災前水準への回復やクラブツーリズムの利益貢献(2014/3-2Qでのれん償却終了)、志摩スペイン村の運営効率化による利益水準安定化

※その他セグメント等で、2014/3営業利益約14億円、2015/3営業利益約18億円

「あべのハルカス」① 開業半年の状況

○あべのハルカスの来館者

3月7日から8月31日(開業178日間)までの来館者

2,220万人(うち百貨店1,889万人)

ハルカス300(展望台)

展望台は、開業半年で当初想定を大幅に上回る**141万人**が来館。あべのハルカス屋上のヘリポートに入場できる「ハルカス300ヘリポートツアー」も好評。



「ハルカス300ヘリポートツアー」ポスター

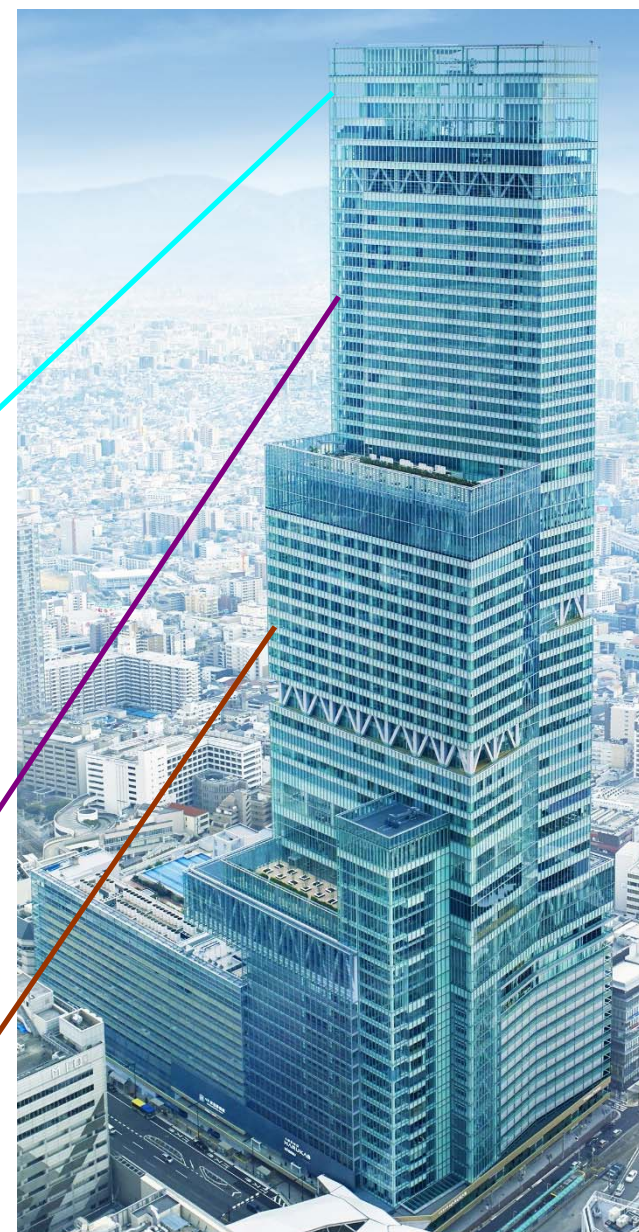
大阪マリオット都ホテル

宿泊は、開業以来高稼働(約**80%**・4月~9月)・高単価を維持。ホテル最上階のレストラン「ZK」は、連日予約で満席の状態が続いている。(当初収入予算比約50%増)



オフィス

オフィス入居率は、**90%強**(10月末現在)。



「あべのハルカス」② 投資額・収支計画

グランドオープン(2014年春)初年度

(単位: 億円)

	近鉄グループ 合 計	近鉄整備分 (ビル・ホテル等) ※1	近鉄百貨店 整備分	前回 (近鉄グループ合計)
投資額	1,300	※2 987	313	1,300
収支計画				
売上高	※4 1,140	※3 110	1,030	※4 1,290
取扱高	1,280	※3 110	1,170	1,530
(減価償却費)	(70)			
営業利益	50			90
(EBITDA)	(120)			

※1 近鉄には、ホテル関係(近鉄ホテルシステムズ)を含む

※2 数値は、百貨店投資額を除く全ての投資額

※3 数値は、百貨店から収受する賃料を除く外部売上高

※4 数値は、百貨店の専門店部分を賃貸収入として計上し、連結相殺を考慮

「あべのハルカス」③ 百貨店計画

◆近鉄百貨店「あべのハルカス近鉄本店」の収益確保に向けた取り組み

・新規顧客の取込	ソラハにおける若年層や子供服用品におけるファミリー層の取り込み、食料品売場における足元商圈への対応
・全館回遊性の改善	下層階から上層階への誘客、タワー館⇄ウイング館間での回遊性の向上

収益確保への取り組み

部門別課題の解消

食品売場

- ・グロサリー売場の見直し
- ・回遊導線の改善
- ・惣菜売場導入による、タワー館でのワンストップ化

婦人洋品

- ・店舗の入れ替え、改装等を実施予定

家庭用品

- ・好調売場の移設・拡大

外商の強化

足元商圈の強化

(外商要員増員による、新規顧客開拓)

顧客政策の強化

- ・顧客政策チームを増強
- ・上位顧客への販促策強化

インバウンド

- ・免税売上高(2014年3～8月)は、前年同期比約5倍

【あべのハルカス館内連携】

- オフィスワーカー向けポータルサイトの充実
- ホテル宿泊者に対するサービス強化 など

「あべのハルカス」④ あべのハルカスでの連携した取り組み

◆あべのハルカスでの連携した取り組み

○ホテル⇄展望台(ハルカス300)

ホテル滞在者に、早朝の展望台を無料入場

○オフィス・美術館⇄地元商店街

あべのハルカスのオフィスワーカーと美術館の来館者を対象に、地元商店街での利用で特典・割引が受けられる「あべのハルカス周辺店舗パスポート」を配布

○ホテル⇄百貨店(あべのハルカス近鉄本店)

ホテル滞在者に、百貨店で買い物をした商品を無料でホテルにデリバリー

○百貨店⇄ホテル・展望台(ハルカス300)

「ハルカスウェディング」
百貨店の福袋として、展望台で挙式、ホテル宴会場で披露宴など1組限定で販売

◆天王寺公園エントランスエリア管理運営事業

大阪市公募事業である同公園エントランスエリアの管理運営事業者として当社が選定された

【計画の骨子】

- ・エントランスエリアに約7,000㎡の芝生広場を導入
- ・さまざまなアクティビティを誘発する商業店舗の導入
- ・地域や広域と連携しながら各種イベントを展開



◆イルミネーションの実施

「ハルカス 星にかなでるクリスマス」

LED電球51万球を使用し、
あべのハルカス館内を装飾



ハルカス300 58階 天空庭園

近鉄グループインバウンドの取り組み

沿線の自然・歴史・文化的観光資源と、近鉄グループが保有する多様な経営資源とのマッチングにより、訪日外国人に向けたサービス・商品を創造し、グループとしての収益拡大を図る。

◆鉄道

- ・ 外国人旅客向けフリーパス乗車券「近鉄レールパス」「近鉄レールパスWide」の取扱を拡大
- ・ 「Osaka Free Wi-Fi」(無料Wi-Fi)を大阪府内の主要駅を中心に設置



◆百貨店(あべのハルカス近鉄本店)

- ・ 免税手続対応カウンターを設置
- ・ 10ヶ国語翻訳対応端末による案内・売場接客対応の強化
- ・ 多言語宣伝媒体等での情報発信強化



- ・ 近鉄グループが保有する海外ネットワークを活用したグループ営業活動
- ・ 近鉄グループ施設としてのインバウンド受入体制強化
- ・ 沿線自治体やグループ外との連携拡大

◆ホテル

- ・ 国内14ホテルで無料Wi-Fiサービスを提供
- ・ 中国銀聯決済に対応
- ・ ハラル対応の食事提供やムスリム用礼拝用具の貸し出し
- ・ 直営ホテル約5,500室のスケールメリットを発揮



◆旅行

- ・ KNT-CTホールディングスに、インバウンド向け企画商品を開発・販売する訪日FITセンターを開設
- ・ 訪日外国人旅行客向けポータルサイト「Tabee(タビー) Japan」を開設



鉄道事業の強化 需要喚起と筋肉質な体制づくり

付加価値向上による需要喚起と、筋肉質な体制による運営効率化を両立させる。

付加価値向上による需要喚起

◆観光特急「しまかぜ」

2013年3月の運行開始から約1年半が経過したが、現在でも満席に近い状況が継続。

(大阪難波・近鉄名古屋～賢島間)



2014年10月、京都～賢島間の定期運行を開始し、合わせて、車内無線LANによる映像コンテンツ配信やカフェ車両でのスイーツ販売などの新サービスを開始。

◆近鉄特急車両による阪神～近鉄直通団体臨時列車

2014年3月より旅行会社によるツアーや社員旅行など団体のお客様向けに、三宮～伊勢志摩を中心に名古屋～甲子園など様々な区間で運行

現時点で20往復(ツアー実施は24回)運行。



◆次世代の特急サービス

お客さまの目線にたって、ニーズに応じた車内設備やサービスを導入し、特急の付加価値の向上を図る。

筋肉質な体制づくり

◆運営体制の見直し

費用削減効果 約50億円

・駅無人化(概ね1日乗降3,000人以下の駅が対象)

無人駅数

2010年度末 32駅(実績)

2013年度末 83駅(実績)

2014年度末 88駅(予定)

・鉄軌道従業員数の削減

鉄軌道従業員数

2010年度末 7,964人(実績)

2013年度末 7,455人(実績)

2014年度末 7,390人(予定)

2015年度末 7,250人(目標)

◆2012年3月 ダイヤ変更

列車本数(平日)4.8%削減による輸送の効率化と

特急増発・停車駅追加など利便性向上

今後も利用状況や需要動向に応じた見直しを適宜実施

費用削減効果
約8億円/年
増収効果
約2億円/年

◆支線対策

内部八王子線

・2015年春、四日市市が施設・車両を持ち、四日市あすなろ鉄道が運営を行う、公有民営方式へ移行

伊賀線・養老線

・2007年に伊賀鉄道・養老鉄道による運営に移行
地元からの赤字支援や補助制度活用による収支改善
・さらに2013年度、地元自治体と勉強会を設置、最速で2017年春の事業体制変更を目標に協議中
→ 当社負担を最小限とする仕組みへ

安全投資

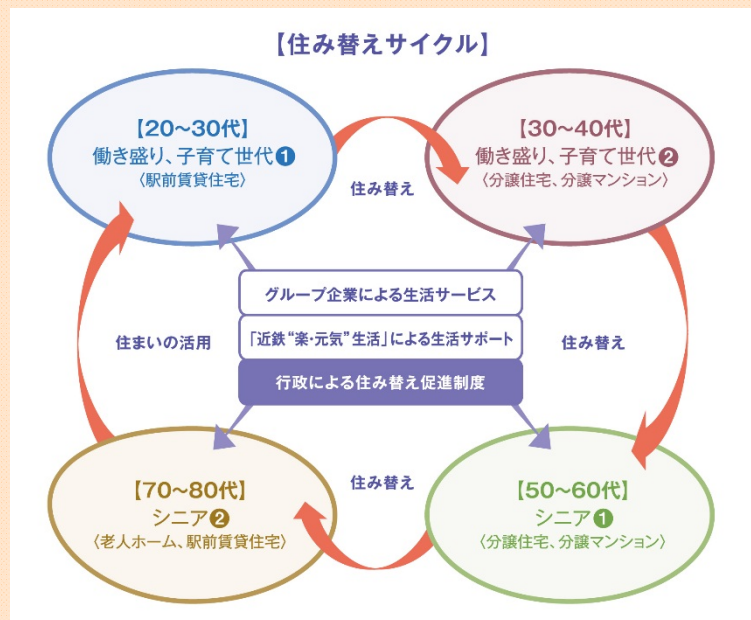
年 度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
鉄道事業設備投資	174億円	181億円	195億円	175億円	210億円(予定)
うち、安全関連設備投資	138億円	134億円	151億円	128億円	134億円(予定)

不動産事業における沿線価値向上の取り組み

「住み続けたい」と思われる沿線であるために「住み替えサイクル」構想を推進し、環境にやさしく、安全・安心・快適に暮らせる街づくりを沿線各地で展開

「住み替えサイクル」構想の実現

当社がこれまで開発してきた住宅地を中心に、子供の成長や家族構成の変化、高齢化など、ライフサイクルやライフスタイルに応じて住み慣れた地域内で容易に住み替えることができ、また子育て世代が沿線外から移り住みやすい環境を整えていく取り組み



◆国土交通省「住宅団地型既存住宅流通促進モデル事業」に採択

対象：奈良県生駒市内の住宅地約**2,900**世帯

⇒モデル事業の採択を受け、奈良県生駒市との間で、「まちづくりに関する基本協定」の締結

○「住み替えサイクル」を推進する取り組み

- ①子育て世代(20~30代)の流入促進
駅前好立地の「駅前賃貸マンション」の展開
- ②子育て世代(30~40代)の住み替え促進
駅前大規模住宅地「学研奈良登美ヶ丘住宅地」の分譲
- ③シニア世代(50~60代)の住み替え促進
奈良県生駒市の公有地において、当社を開発事業者とする「ナチュラルスマートタウン」を開発
- ④高齢者世帯の住み替え促進
「高齢者向け住宅」の展開



成長のための取り組み 太陽光発電ビジネスの状況

太陽光発電事業は、最大規模の4箇所目が今年10月に運転開始。
今後も遊休地の有効活用策を引き続き検討。

近鉄伊賀ゆめが丘ソーラー発電所

所在地: 三重県伊賀市
発電開始: **2014年10月**
面積: **23ha**
発電容量: **15.5MW**



◆近鉄志摩スペイン村ソーラー発電所

所在地: 三重県志摩市
発電開始: **2013年9月** 発電容量: **2.5MW**



◆近鉄花吉野ソーラー発電所

所在地: 奈良県大淀町
発電開始: **2014年3月** 発電容量: **4.2MW**



◆近鉄大分高江ソーラー発電所

所在地: 大分県大分市
発電開始: **2014年3月** 発電容量: **2.2MW**



4箇所合計で、総発電容量**24.4MW**、年間総発電量約**2,570万kWh**、一般家庭約**7,100**世帯の年間消費電力量に相当。

来年度以降、太陽光発電事業での年間売上高約**10億円**を確保。

◆遊休地活用の状況

レンタル収納スペース

高架下周辺を活用し、
2014年3月営業開始



農業(近鉄ふぁーむ花吉野)

2012年夏から、植物工場ではレタスやラディシュを、農業用ハウスでは糖度の高いトマトを生産し、主にグループ内のスーパーマーケット、ホテル等に供給。



近鉄グループホールディングス

純粋持株会社制の目指すもの

企業価値向上に向けたグループ体制

「経営」と「事業執行」を分離し、グループ全体の企業価値を高め、成長を加速させる

全体最適の視点でのグループ経営機能の強化

純粋持株会社

グループ経営
戦略の立案

経営資源配分
の意思決定

財務体質
強化

CRE戦略等
諸施策の
推進

経営人材の育成

事業間の連携促進・シナジーの強化

各事業会社の事業執行に関わる権限を強化

事業責任の明確化

鉄道
事業会社

不動産
事業会社

ホテル
事業会社

流通
事業会社

その他
近鉄グループ
各社

＝外部環境の変化に迅速に対応し、お客様ニーズを的確に捉えたサービスの提供＝

専門人材の育成

経営

経営目標
の提示

資源配分

事業
執行

グループ
貢献

成果の
創出

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。



お問合せ先

経理部

Tel:06-6775-3465

Fax:06-6775-3691

Mail:ir-info@rw.kintetsu.co.jp